

大須賀筠軒 おほすけが ぶんけん 儒者。天保十一年陸奥國平城下生れ、大正元年八月二十八日歿（二八四—一九二）。平藩儒神林復所の二男、戊辰戦後大須賀家を遷ぐ。講履、字子泰、通稱神林二郎、次郎。號鷗渚、筠叟、筠軒主人。安政六年昌平坂學問所に入り、安積良齋あんせきりょうさいに學ぶ。歸郷後藩儒佐賢堂頭取となる。この間塾かえんを開き子弟を教授。明治十一年字多郡長、また福島縣地誌編輯掛として「磐城郡村誌」を編纂。のち福島師範學校、第一高等學校各教授歴任。俳人大須賀乙字の父。

著書「舟門小誌」（明治十八年觀海樓藏）等。